

元プロ野球選手の王貞治氏（現ソフトバンク監督）が世界記録の756号ホームランを打った時、あなたはどこで何をしていましたか？

当時23歳の私は、八丈島にいた。断食をしていたのだ。別に誰かに勧められたわけではない。断食を一度やってみたかったのだ。

「断食をやるう！」と思いついた。場所は……そうだ、八丈島だ！ とひらめいた。江戸時代の流人の島というイメージが断食というフレーズにぴったりに感じたのである。

東京から船で向かい、島に着くと、早速ビーチにテントを張った。断食には、持ち物がほとんどいらない。お金も使わない。水さえ飲めれば、事足りるのだ。

始めの3日が辛い。頭の中は食べ物でいっぱいだ。断食とは精神修養のほずなのに、カレーライスやカツ丼のことばかり考えている。美しい自然があふれているのに、心に見えているのは、スパゲティや大福餅だ。

ところが、3日を過ぎた辺りで突然身体が軽くなった。レンタル自転車で島内を走り回った。八丈富士にも担いで登った。何も食べていないのに、どこからエネルギーが出て来るのか？ 不思議だ。

島にはラジオを持ってきていた。ある夜、テントで野球中継を聞いていた。巨人戦だ。突如、ア

ナウンサーの声が絶叫に変わった。「入った！ 入った！ 756号ホームラン！」。私は、興奮してテントを飛び出し、夜空を見上げていた。そう、王選手が世界記録を作った瞬間、私は、八丈島で断食をしていたのである。

偉大な記録を作る人というのは、人々に「その時、何をしていたか」という記憶を植え付けてくれる人なのかもしれない。さあ、これからスポーツ選手はどんな記憶を与えてくれるのか？ 楽しみだ。

【朝日新聞・マリオン】

2007年1月17日掲載